

昆虫類

生きもの主な生息環境を表示しています。



金属光沢を持つ美しい甲虫!

タマムシ

(タマムシ科)

Chrysochroa fulgidissima fulgidissima

森の宝石とも称される、緑色の金属光沢が美しい昆虫です。平地から山地の広葉樹林の周辺で見られます。成虫は、初夏～夏にかけて出現し、エノキやケヤキ、サクラ類の葉を食べます。

豆知識 日本人には古くから親しまれてきた昆虫で、「筆筒(たんす)に入れると着物が増える」や、「縁起の良いことの前触れとして「吉兆虫」と呼ばれることもあります。

名前(別名)

- ▶ 地球上の生物数は知られているだけでも約175万種、このうち昆虫は約95万種いるとされ、地球の生物の半分以上が昆虫ということになります。人にとって昆虫は、蜂蜜をとる養蜂や、絹をとる養蚕(ようさん)など関わりの深い存在ですし、動物の多くは昆虫を餌とします。植物との関わりも深く、花にやってくる昆虫は、花から蜜をもらう代わりに花粉を運び受粉に役立っています。
- ▶ 樹林やその林縁では、樹液を餌とするミンミンゼミやヒグラシなどのセミ類、ムラサキツバメなどのチョウ類、樹液を餌とするミヤマクワガタやエノキヤサクラの葉を餌とするタマムシなどのコウチュウ類、トゲアリや樹液などを餌とするオオスズメバチなどのハチ類などが見られます。
- ▶ 水田や河川などの水辺では、幼虫期を水中で過ごすギンヤンマやオニヤンマなどのトンボ類、水中をすみかとするアメンボやミズカマキリなどの水生カメムシ類、モンキマダゴロウやヒメガムシなどの水生コウチュウ類などが見られます。
- ▶ 市街地やその周辺では、クマゼミなどのセミ類、ツバメシジミやヤマトシジミなどの乾燥した環境を好むチョウ類、キマダラカメムシやアメリカジガバチ、セイヨウオオマルハナバチなどの外来生物などが見られます。

アオスジアゲハ

(アゲハチョウ科)

Graphium sarpedon nipponum



平地から低山地の主に広葉樹林の周辺で見られます。幼虫は、クスノキやヤブニッケイなどのクスノキ科の植物を餌とします。名前のお通り、黒地の翅(はね)に青白い筋が一本入っているのが特徴です。

豆知識 青い帯のような模様の特徴で、この青い模様の形が少し違っていたり、青い模様が無かったり、翅の模様が変化に富んでいることが知られています。なお、昆虫の「はね」は「翅」と書きます。

翅の模様



青い筋状の紋の入った綺麗な蝶!

カブトムシ

(コガネムシ科)

Trypoxylus dichotomus septentrionalis



平地から低山地の主に雑木林で見られます。成虫は、昼間よりも夜に活動的で、クヌギなどの樹液に集まり、幼虫は腐葉土を餌とします。成虫は初夏から夏にかけて出現します。

豆知識 地中にすむカブトムシの幼虫は、でんぐり返しをくり返して地中を掘り進めていることが最近分かりました。

幼虫の不思議



夏の昆虫と言えは僕でしょ!

柿の受粉に貢献するコマルハナバチ

うきは市の名産の一つである柿、実は、この柿は昆虫類が受粉するおかげで実がなることをご存知でしょうか? 柿の受粉には飼養のセイヨウミツバチが導入されることが多いですが、最近、野生ハナバチ類の一種であるコマルハナバチというハチも、柿の受粉に大きく貢献していることが分かってきました。コマルハナバチは、一般にはほとんど知られていませんが、平地から山地まで広く生息し、春～初夏にかけて出現するハチです。また、雌ハチは全体的に黒色の毛で覆われた丸っこい体形で、腹部の先の毛はオレンジ色という、ぬいぐるみのようなとても可愛らしいハチです。柿以外の他の果物の多くも、送粉昆虫と呼ばれる昆虫類の手助けによって受粉し、美味しい実をつけます。コマルハナバチのようなハチ以外にも、自然下では、チョウ類、他のハチ類、ハエ類、コウチュウ類など、様々な昆虫類が、花粉媒介者として活躍しています。



オニヤンマ (オニヤンマ科)

Anotogaster sieboldii



日本最大のトンボで、平地から山地の小川や溪流などの周辺に生息。成虫は、初夏～秋にかけて出現します。主に、浅い細流の砂泥の水底に、産卵管を繰り返し突き立てて産卵します。

豆知識 勝ち虫の由来

トンボは後退せず、前にしか飛ばないことから、「不転退(退くに転せず、決して退却をしない)」の精神を表すとし、「勝ち虫」として武将にとても好まれました。武将の兜や武具のデザインにトンボの柄が使われているのはこのためです。

ニシキリギリス

(キリギリス科)

Gampsocleis buergeri



平地から低い山地の草地で見られます。成虫は、初夏～秋に出現し、鳴く虫の中では比較的早い時期から鳴き声が聞こえます。主に昼間に「ギース・チョン」と鳴きます。

豆知識 虫の音

昔から日本人は、キリギリスやスズメなどの虫の音に耳を傾け、秋を感じてきました。実はこうした虫の音を聞く文化は、世界的には大変珍しく、存在するのは日本と中国だけと言われています。

ナミハンミョウ (ハンミョウ科)

Cicindela japonica



平地から低山地の林道、裸地、河原などに生息。春～秋に見られ、成虫、幼虫ともに肉食で、他の昆虫を食べます。近づくると飛んで少し先に逃げるため、「道教虫」とも呼ばれます。

豆知識 名前の由来

漢字では「斑猫」と書き、これは獲物に襲い掛かり鋭い大アゴで捕らえる姿がまるで猫のように見えることから、という説があります。

ミヤマカワトンボ

(カワトンボ科)

Calopteryx cornelia



丘陵地から山地の溪流などの周辺に生息。成虫は、初夏～秋にかけて出現し、交尾後、雌は浅い水中にある植物体の中や朽木に産卵しますが、水中に潜って産卵することもできます。

豆知識 類似種

よく似たカマキリに、外来種の「ムネアカハラビロカマキリ」がいます。日本では2010年に初めて確認され、福岡県でも見られます。在来カマキリ類との競合が心配されています。

アブラゼミ (セミ科)

Graptopsaltria nigrofuscata



平地から山地の樹林に生息。各地に普通に見られ、日本のセミの代表種といえます。7～9月まで鳴き声が聞かれます。幼虫の多くは、5年間ほど土中ですごします。

豆知識 翅の色

多くのセミは翅が透明ですが、アブラゼミの翅は全面茶色です。翅が全面茶色であるというこの特徴は、実はとても珍しく、世界的にも少数派です。

ゲンジボタル (ホタル科)

Luciola cruciata



平地から山地の、流れのある水域に生息。うきは市では、5月下旬～6月中旬にかけて、山林や山麓の水辺で、成虫が出現し発光します。幼虫は肉食で、主に巻き貝のカワナナを餌とします。

豆知識 水生のホタル

日本では、幼虫の時期を水中ですごすゲンジボタルやヘイケボタルが有名ですが、世界的にみると、水生のホタルはとても珍しく、ほとんどのホタルは一生を陸ですごします。

ハラビロカマキリ

(カマキリ科)

Hierodula patellifera



平地から低山地の樹林や樹林に隣接する草地のほか、市街地の公園の樹木でも見られることがあります。成虫は、夏～秋にかけて出現し、成虫や幼虫は肉食で、他の昆虫類などを食べます。

豆知識 類似種

よく似たカマキリに、外来種の「ムネアカハラビロカマキリ」がいます。日本では2010年に初めて確認され、福岡県でも見られます。在来カマキリ類との競合が心配されています。

アゲハ (アゲハチョウ科)

Papilio xuthus



平地から低山地の樹林、耕作地、市街地など、様々な環境で見られ、成虫は、薄黄色と黒、後ろ翅に青やオレンジの模様、幼虫は、サンショウやミカン類を餌とします。

豆知識 驚異の色覚

花を訪れ、蜜を吸うアゲハですが、最近になって人間よりも色を細かく見分けられるほど鋭い色覚を持つことが分かってきました。

コマルハナバチ

(ミツバチ科)

Bombus ardens ardens



平地から山地の草地や林縁、耕作地、市街地にも見られ、成虫は春から初夏にかけて出現し、社会性を持っています。様々な花を訪れて、花粉や花蜜を集めます。

豆知識 メスとオスの違い

メスの体色は黒く、腹部後方がオレンジ色です。いっぽうオスは、全身淡い黄色で、尻部先端のみオレンジ色です。